

はっぴな 1988 5 No. 94

事務局：〒

津田尚美方 TEL

編集人：葛西よう子：〒



池田 玲子

私の子供も大きい。更に離婚は恥ではない、と
 いう考えがある。旧姓に
 さんともどうしようもないが、
 姓を変えるという事は
 手間、金とお金のかかる上
 に、自分の離婚を天下にレ
 ズしめすこと、となり、これが
 社会習慣上、女の方だけに
 かさねるという事は、やはり
 大変な差別である、と気が
 たわひである。

具体的にのべて見ると、改姓にあたるは、色んな事
 絶えが用意され、一つ毎にお前は離婚したん

老後と共に暮らさる人々と見極めがついて、比の
 たか離婚した。
 将来の責任は自分で背負う覚悟は出来てしま
 った。自分の離婚が、私事を然りない、やうく、を身
 もって体験した。ある。

だが、という事を知らしめ、男はろくに女を有形、無形
 にこしめるは掛けになさる、というは言いたくはな
 いか。

ために男側がこれだけの事をされてみるがよい。まあ、
 職場に申し出る。これだけ離婚した事がある。あ
 言わなくても言わなければならない。このせま、日本社会では
 必須、三重姓がばれ、かえってあやしまれるばかり
 である。戸籍抄本をとるのに、理由がいり、時間と費用
 がかかる。上司は改姓届を出せという。
 「私はあなたが」により改姓致しました。戸籍
 抄本をよって、お届け致します。

改姓理由

改姓名 旧姓名

この「に」離婚——と記入して行くうちに、ふつふつと
 怒りがわいて来る。
 改姓発着のあと、出勤法に新姓(?)を押印して
 したら台帳を持つて来る。正式に認められる迄、今まで



今年のゴールデンウィークも毎年恒例にある
Y.W.C.A.のシンポジウム 出席のため上京した。

今年は「アジアの人々と共に生きる」という分科会に入り、勉強している。五月の色々な市民運動を知らせる文書がみんな来て、「東莞」「桂」とも知りたい。一親子で話し合うために」とあり、場所が「グロソ・ハウス」。そこで五月三日の昼下がり。美しい、美しいヤキ並木の表参道を「グロソ・ハウス」へ。下宿は「グロソ・ハウス通信」5月号の切り抜きです。どうして「グロソ・ハウス」が展示会、講演会、映画と活動にいろいろなのか。そのやさしさがよくわかります。

●おいひがあります。わががらす、
原発について書いてある本の特集を
してほしいのです。中絶「チエルム
パイプ」は決して対岸の火ではないの
です。何をかくそう、私はかの有名な
東栗駒のすく北「日立市」の、それ
も南のはずれにゐるのです。東栗駒
に原研が移された時、自殺行為に
等しいというのをきいたことがあり
ます。今、その意味がよくわかりま
す。放能能という目にもみえないもの
を、どのようにして防げないもので
すか？ 私たちは、広島や長崎にお
つた原爆の恐怖を忘れてしまえるの
ですか。

今、原発反対の声が高まろうとして
います。伊万の出力調整に反対し
た声をもつと大きくてほしい。そ
のために原発について、もつとみ
なが知るべきだと願うのです。

栗駒の原発は、地獄の小学生に一
部内部をみせてくれましたがバスでま
わるだけです。立入禁止、放能能ま
ろく……見学しながら、今ここで事
故したらおしまいだなと思いました
本当のことを知りたいと思います
（日立市・大竹洋子さま）

下さん。いまがわたしのいちばん好きな季節といっているでしょう。心が踊って踊って困るといった状態です。こんな気分の時に、同窓会がありました。当然(今)、勇んで出掛けてきたのです。

Ｔさん。ひとりの友人に突然、こう聞かれたのです。

「あなた、女性支店長のいる銀行って知らない？」

「どうして、そんなことが知りたいの？」

「男女雇用機会均等法が施行され3年目に

「そのことと、女性店長というのが関係あるってわけだ。」

「立駒」：多分、寒隅に行なわれているおどろきおどろきおどろき

「立崩しではなく、実際に行なわれているかどうかが問題ですね」

まして銀行みたいな男権主義の権化みたいなところに、もう女性店長

を誕生させているとしたら、わたしは、その系列の銀行に、少ない額

「金だけど、全部を移したいの」

Ｔさん、この話をどうお考えですか？ わたしは、何と素晴らしい考え

だるうとうれしくなります。田の強くなった日本の中で、女性も財

車を握っている割合は相当なもので、その女性存在が、実際の

性を纏っている朝日は相当なものらしいね。その女性たちが、美原の

消費行動の中で、具体的な変化を見せたとしたら、メーカーやお店は

変わるはずだ、という彼女の考え方。わたしは虚を突かれた思いでし

た。そしてわたしは考えたのです。

Ｔさん。わたしたちは、「くだらないテレビが子どもに悪い影響を与え

て困る」という意見をもっています。しかし、その番組を続投させて

いるのは、わたしたち消費者なんですよね。

Ｔさん。くだらないテレビ番組やラジオ番組のスポンサーになってい

る商国を奪わないってのはどうでし、よう。わたしは、強い立場に

いるけれど、そういう方法をとる時に、強い消費者になれるのではないか

いるけれど、こういう方法をやる時に、強い消費者になれるのではないかと考えた。そこで購買的になるのは、消費者に「買物」をさせる

いでしょうか。もつと積極的になるのは、スポンサーに「何故、あん

な番組のスポンサーになっているのですか。わたしは、あの番組のス

ボンサーである間、あなたの商品は買いません」という手紙を書くこ

とです。わたしは、「しょうがないや」という体質から脱皮します。

(continued)

10. *Journal of the American Medical Association*, 273:1323-1324, 1995